

11/17 五期



ガザ地区の市民の命を救う行動を続ける決意を固めた院内集会＝16日、東京都千代田区。

「平和をつくり出す宗教者ネット」と「基地のない沖縄をめざす宗教者の集い」は16日、「殺すな！ガザ市民のいのちを救おう！宗教者・市民集会」を衆院第2議員会館で開催しました。パレスチナの平和を訴える日本人ムスリムの話を聞き、すべての宗教者が大同団結してガザ地区の市民の命を救う行動を続ける決意を固めました。

ガザ市民の命救おう！

宗教者ら団結

日本キリスト教協議会の金桂 濟（キム・ソンジエ）総幹事が「イスラエル軍による攻撃で、1方1千人を超える死者が出ており、その半分は女性や子どもだ。私たちは停戦に向かって世界の人々と、声を上げていきたい」とあいさつしました。

宗教法人「日本イスラーム文化センター」の村和義さんが、イスラーム教の教義や文化、イスラエルとパレスチナの現在に至るまでの歴史について語りました。今現在パレスチナのガザ地区で激化している紛争は宗教戦争ではなく、純粹な政治的な問題だと強調。「どっちがいい悪いという問題ではない。即時停戦すべきだ」と批判しました。

中村さんは、イスラーム教では人間一人の命の重さは全人類の命の重さと等しいとしていることを紹介。「誰一人として、戦争や虐殺が『良かった』なんていう人はいない。イスラームの教えを、問題解決のために役立てることはできる」と訴えました。集会には、日本共産党、立憲民主党、社民党の議員が出席。共産党からは井上哲士参院議員が参加しました。

攻撃停止求め声明

■日朝協会
日朝協会執行役員会は15日、イスラエルによるパレスチナ自治区ガザへの大規模空爆と地上侵襲が続いていることをうけ、「日本政府はイスラエルにガザ武力侵襲の停止・停戦を求めよ」とする声明を発表しました。

■全障研

全障研は、イスラエル軍による攻撃で、ガザ地区では1万人を超え、人々の命が奪われたと指摘。水や食料も不足し、医療活動ができず、「子どもたちが亡くなっている」と述べています。

また、こういう状況の中で、国連決議の「人道的休戦」に賛成しなかった日本政府を批判。「攻撃をやめさせる」という声を政府に「向けなければならぬ」と述べています。